

平成十八年度 中学校入学試験問題 国語

次の文章を読んで、後の質問に答えなさい。

「婆^{ばあ}や……どうしたの」

おかあさんはぼくをおしのけて、婆やのそばに来てこうおっしゃった。

「八ちゃんがあなた……碁石^{ごいし}でもお飲みになったんでしょか……」

「お飲みになったんでしょかもないもんじゃないか」

おかあさんの声はおこった時の声だった。そしていきなり婆やからひったくるように八ちゃんを抱^だき取って、自分が苦し^くつてたまらないような顔をしながら、ばたばた手足を動かしている八ちゃんをよく見ていらっしやった。

「象牙^{けいげ}のお箸^{はし}を持^もつてまいりましょうか……それでのどをなでますと……」婆やがそう言うかわねに、

①「とげがささったんじゃあるまいし……にいさんあなた早く行^いって水を持^もつていらっしやい」

とぼくの方^②をこらんになった。婆やはそれを聞くと立ち上がったが、ぼくは婆やが八ちゃんをそんなにしたように思ったし、用はぼくがいつかつたのだから、婆やの走るのをつきぬけて台所^かに駆けつけた。けれども茶わんをさがしてそれに水を入れるのは婆やのほうが早かった。ぼくはくやしくな^いって婆やにかぶりついた。

「水はぼくが持つてくんだい。おかあさんはぼくに水を……」

「それどころじゃありませんよ」

と婆やはおこったような声を出して、ぼくがかかつて行くのを茶わんを持^もつていないほうの手でふりはらって、八ちゃんの方にいってしまった。ぼくは婆やがあんなに力があるとは思^{おも}わなかった。ぼくは、

「ぼくだいぼくだい水はぼくが持つて行くんだい」

と泣きそうにおこって追^おっかけたけれども、婆やがそれをおかあさんの手にわたすまで婆やに追いつくことができなかった。ぼくは婆やが水をこぼさないでそれほど早く駆けられるとは思^{おも}わなかった。

おかあさんは婆やから茶わんを受け取ると八ちゃんの口の所にもって行^いった。半分ほど襟^{えりくび}に水がこぼれたけれども、それでも八ちゃんは水が飲^のめた。八ちゃんはむせて、苦し^くがって両手で胸の所を引^ひかくようにした。ふところの所にぼくがたたんでやった「だまかし船」が半分顔を出^でしていた。ぼくは八ちゃんがほんとうにかわいそうでたまらなくなった。あんなに苦しめばきつと死ぬにちがいないと思った。死^しんじやいけないけれどもきつと死ぬにちがいないと思った。

今までくやし^くがっていたぼくは急に悲^{かな}しくな^いった。おかあさんの顔が真青で、手がぶるぶるふるえて、八ちゃんの顔が真赤で、ちっとも八ちゃんの顔みたいでないのを見たら、一人ぼっちにな^いってしまったよう^②で、がまん^なのし^なようもなく涙^{なみだ}が出^でた。

おかあさんはぼくがべそをかき始めたのに気もつかないで、夢中にな^いって八ちゃんの世話をし^していな^いさ^いった。婆やはひざをついたなりでのぞきこむように、おかあさんと八ちゃんの顔とのくつき合^あっているのを見おろ^ろしていた。

そのうちに八ちゃんが胸にあてが^あつていた手を放^{はな}しておどろいたような顔をしたと思^{おも}ったら、いきなりいつものとおりな大きな声を出^でしてわーと泣きだした。おかあさんは夢中にな^いって八ちゃんをだきすくめた。婆やはせきこんで、

「通りましたね、まあよかったこと」

といった。きつと碁石^{ごいし}がお腹^{なか}の中^{なか}にはいってしまったのだらう。おかあさんもすこし安心な^なさ^いったよう^なだった。ぼくは泣きながらも、おかあさんを見たら、その目に涙^{なみだ}が^あっぱいたま^まっていた。

その時にな^いっておかあさんは急に思^{おも}い出^でしたように、婆やにお医者さんに駆けつけるようにとおっしゃ^いった。婆やはびよこびよこ幾度^{いくど}も頭を下^さげて前^{まへ}だれで顔をふきふき立^たって行^いった。

泣きわめいている八っちゃんをあやししながら、おかあさんはきつい目をして、ほくに早く碁石をしまえとおっしゃった。ぽくはしかられたような、悪いことをしていたような気がして、大急ぎで碁石を白も黒もかまわず入れ物にしまってしまった。八っちゃんは寢床ねどこの上にねかされた。どこもいたくはないとみえて、泣くのをよそうとしては、また急に何か思い出したようにわーっと泣きだした。そして、

「さあもういいのよ八っちゃん。どこもいたくはありませんわ。弱いことそんなに泣いちゃあ。かあちゃんがやさしくしてあげますからね、泣くんじゃないの。……あのにいさん」

③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

「まあにさんも弱虫ね」

④　　といながらおかさんも泣きだしなさった。それなのに泣くのをぼくにかくして泣かないようなふうをなさるんだ。
⑦

「にいきん泣いてなんぞいないで、お座ぶとんをここに一つ持って来てちょうだい」

とおっしゃった。ぼくはおかあさんが泣くので、なお八っちゃんが生ぬんではないかと心配になっておかあさんのおっしゃるとおりにしたら、ひよつとして八っちゃんが助かるんではないかと思つて、すぐに座ぶとんを取りに行つてきた。

その晩はほくは婆やと寝た。そしておかあさんは八っちゃんのをそばに寝なされた。婆やが時々起きて八っちゃんの方に行くので、せっかくねむりかけたほくは幾度も目をさました。八っちゃんがどんなになつたかと思うと、ほくはほんとうにさびしく悲しかった。

時計が九つ打つてもぼくは寝られなかった。寝られないなあと思っているうちに、ふつと気がついたらもう朝になっていた。いつのまに寝てしまったんだろう。

「にさん目がさめて」

そういうやさしい声がぼくの耳もとでした。おかあさんの声を聞くとぼくのからだはあたたかになる。ぼくは目をぱちちり開いてうれしくって、思わず寝がえりをうって声のする方に向いた。

そこにおかあさんがちゃんと着がえをして、頭をきれいに結^ゆつて、にこにことしてほくを見つめていらつしやつた。⁽¹⁾

「およろこび、八っちゃんがね、すっかりよくなつてよ。夜中にお通じがあつたから碁石が出て来たのよ。……でもほんとうにこわいから、これからいさんも碁石だけはおもちゃにしないでちようだいね。にいさん……八っちゃんが悪かつた時、にいさんは泣いていたのね。もう泣かないでもいいことになったのよ。今日こそあなたがたにいちばんすきなお菓子^かをあげましょうね。さ、お起き」

と言つてぼくの両脇わきに手を入れて、抱き起こそうとなさつた。ぼくはくすぐつたくてたまらないから、大きな声を出してあはあははと笑つた。

「八っちゃんが目をさしますよ、そんな大きな声をする」と

と言っておかさんはちよつとまじめな顔をなさったが、すぐあとからにこにこしてほくの寝巻ねまきを着かえさせてくださった。

白百合学園

問一 くくく線ア、オの敬語の表現を例にならって、普通の表現に直しなさい。

例…おっしゃった 答え…言った

問二 ———線①「とげがさったんじやあるまいし、持っていらっしやい」とありますが、なぜ「おかあさん」は「婆や」ではなく、「ぼく」に水を頼んだのですか。二十五字前後で説明しなさい。

問三 ———線②「がまんのようにもなく涙が出た」・————線③「ぼくがしくしく泣いている」とありますが、なぜ「ぼく」は泣いているのですか。「ぼく」が泣いている理由をそれぞれ五十字以内で答えなさい。

問四 ———線④「おかあさんも泣きだしなされた」とありますが、「おかあさん」は、なぜこの時「泣き出し」たのですか。理由を説明しなさい。

問五 ———線⑤「大きな声を出してあははあははと笑った」とありますが、「ぼく」がこの時「大きな声」で笑えたのには、二つの理由が考えられます。その理由を二つとも答えなさい。

問六 この文章で、作者が最も言いたかったこと（主題）は何ですか。五字前後で答えなさい。

次の文章を読んで、後の質問に答えなさい。

著作権上の都合により未掲載

〈注1〉分子Ⅱ物質の最小の構成単位。

〈注2〉恒星Ⅱ太陽のように、自分自身で発光する星。

〈注3〉圏Ⅱ限られた区域、はんい。

〈注4〉実利Ⅱ実際に役に立つこと。

〈注5〉魅せられてⅡひきつけられて。

白百合学園

問一　　く　　線 a　　f のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直して書きなさい。

問二　　文中の空欄 I　　V にあてはまる言葉を次のア　　オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア　そして　　イ　なぜなら　　ウ　さらには　　エ　しかし　　オ　例えば

問三　　――線①「それまでの常識をくつがえされる」という表現がありますが、これはどういう意味ですか。別の言葉を使ってわかりやすく言いかえなさい。

問四　　――線 A 「そのこと」・――線 B 「こうした知恵^え」がさしている内容をそれぞれ答えなさい。ただし、――線 A については十五字以内で、――線 B については二十字前後で答えること。

問五　　――線②「自分自身をさがす旅」とありますが、これはどういうことですか。文中の言葉を使って説明しなさい。

問六　　――線③「人間の知恵と宇宙との交歓^{かん}」とありますが、これはどういうことですか。文中の具体例を使って説明しなさい。